

## 第 2 回

### 共同利用館後継施設検討部会

(共同利用館の後継施設に関する意見交換会)

## 議 事 録

日 時：2022年12月13日（火）午後6時30分開会  
場 所：かでの 2・7 8 階 820 研修室

## 1. 開 会

○本田部会長 皆様、イランカラマテ。

ありがとうございます。違う方言の方もいらっしゃるとは分かりながら、取りあえず、ご挨拶として申し上げます。

それでは、定刻となりましたので、第2回共同利用館後継施設検討部会を開催いたします。

私は、恐縮ながらこの部会の部会長を務めることになりました本田と申します。札幌大学の教員をしております。今日は、よろしく願いいたします。

最初に一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

自己紹介のようなものになりますけれども、私は、今回、部会長ということをして市のほうからご依頼があったときに、まず、お断りしました。といいますのは、これはあまりにも重たい仕事だというふうに思います。これから何十年という札幌のアイヌ民族の活動に大きく作用するような重たい仕事だと思いましたので、私には無理だとお断りいたしました。ただ、いろいろご意見も伺ったりしましたのと、あと、私が、平取町の二風谷に萱野茂先生の助手として移り住んだのが1983年です。来年で40年になります。一応、40年間、関わらせていただいたということで、年月だけはたっていると。何か恩返しをする機会になるかもしれないと思ひまして、お引き受けさせていただきました。

今日は、大変緊張しております。ただ、皆様のたくさんの意見を聞かないと進めてはいけなと最初から思っていましたので、今日はその貴重な機会だと思ひています。ただ、言いたい放題で、言いつ放しというようなことは避けたいと思ひています。今日は、つくり上げていく場と考えています。ですから、そういう立場で皆様からご意見を頂戴したいと思ひます。

もう一つ、お役人の方々がたくさん来られています。当たり前ですけども。それで、お役人というのは、活動をセーブする、抑える側に回る人たちなのではないかと私も実は根っこのところで思っていたところが随分あるのですが、この間、少しお話しさせていただきましたと、札幌市の職員の方々は、一生懸命、この施設をつくり上げようというふうに考えてくださっていますので、決して対立するというのではなく、建設的な場にして、皆さんでこれからつくり上げていくための今日は第一歩の集まりだと思ひていますので、何とぞ、そういう方向でご意見を頂戴したいというふうに思ひます。よろしく願いいたします。

本日の部会は、共同利用館の後継施設に関する意見交換会として開催しておりまして、委員の5名のほかに、応募していただいた皆様にご参加いただひています。

まず、事務局から事務連絡をお願いいたします。

○事務局（松下企画係長） 本日は、お忙しい中をご参加いただきまして、ありがとうございます。

札幌市アイヌ施策課企画係長の松下と申します。

本日、アイヌ施策課長の大家ですが、新型コロナウイルスの陽性となり、欠席しておりますことをまずお詫び申し上げます。

皆様のお手元には、次第、座席表、資料1というホッチキスどめの資料と別紙をお配りしてございます。

座席表なのですが、申込書の行き違いで、大変申し訳ございません。座席に表示がございませんが、資料の下側の藤岡様の左側に、太田様にご参加をいただいております。

本日、会場の関係上、20時30分までには全て終了させる必要がございますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

また、使用するマイクなのですが、発言の都度、事務局職員が回収して、消毒してから次の方にお渡しいたしますので、こちらについてもご協力をお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

○本田部会長 ありがとうございます。

20時30分には全て終了させる必要があるということですので、スムーズな議事進行にご協力をいただければ幸いです。

## 2. 自己紹介

○本田部会長 それでは、まず、簡単な自己紹介から始めたいと思います。

時間が大変限られていますので、この後の議論の時間を確保するために、一言ずつ、ごく簡単にお願ひできればと思います。

それでは、多原委員からお願ひいたします。

○多原委員 皆さん、こんばんは。イランカラテ。

私は、札幌市アイヌ施策推進委員会の委員もしておりますけれども、このたび、共同利用館後継施設検討部会の委員もさせていただきました。

前回、一度、会を開きまして、委員がそれぞれ、この後継施設について意見交換をしたところですが、本日は、このように、アイヌ文化に今まで関わっている多くの方と一緒に検討できることを非常にうれしく思っております。

私も、今の共同利用館が生活館だった頃、四十数年前に開館する前から記憶しております。その場でいろんなことをこれまでやってきました。今後も、そういったことも含め、未来に向けて、皆さんの意見を聞きながら、よりよい後継施設ができることを望んでおりますので、本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○藤岡委員 本日は、よろしくお願いいたします。藤岡千代美です。

今回、今後の新しい生活館というものができると、委員になりまして、何とかいい施設ができればなと思っています。

札幌で生まれて、札幌で育って、アイヌという血のことも知らずに育った私が、今、アイヌ文化に入り、いろんなことを学んで今まで来ました。それも、本当に成人してからになります。札幌というこの地域で、ほかの地域と違う、札幌は、独特な特徴がある、い

ろんな人たちが集まって札幌で住んでいるという特徴のある地域です。

そして、北海道の中心になる札幌という大きな都市の中で、いろいろな形で生活館というものが他の地域とは違った形でできるのではないかなというものもあるので、そういう新しい形の生活館というのと、札幌という特徴もあるので、担い手の育成が今なかなかできていないというのをとても感じるので、そういった育成ができるような、環境づくりができるような生活館みたいな感じですね。そういうものを、今、私は特に思うので、そういう活動もできる生活館、アイヌの文化を様々な市民や国際的にいろんな人々に発信できる大きな施設ができればなと思います。

○伊藤委員 アイヌ民族文化財団に勤めております伊藤琢巳と申します。

多くの世代の声を聞きたいということで、今回、お声がけをいただいて、委員として参加させていただきました。

僕自身は、札幌出身ではなくて、旭川出身で、旭川のアイヌ文化を少しではあるのですが、けれども学んできました。まだまだ若輩者なので、どこまでこの委員会の中で今後のアイヌ文化の支えになるようなことを言えるのかは分からないですけれども、できる限り、未来に向けた発言、これからアイヌ文化がよりよくなっていくような発言をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○後藤委員 皆様、本日はよろしく願いいたします。

私は、札幌大学の2年生の後藤小華と申します。

ふだんは、札幌大学のウレシパクラブというところでアイヌ文化について勉強しています。学生という立場で、多分、未熟な部分もたくさんあると思いますが、できるだけ精一杯務めさせていただきたいと思っています。

○石井さん 石井美香と申します。

マユニタラモシリ札幌トンコリ保存会という舞踊団体に所属しています。よろしく願いいたします。

○岡田さん 一般社団法人札幌大学ウレシパクラブの岡田勇樹と申します。

日頃、ウレシパクラブの学生のサポートを仕事としてやっております。本日はよろしく願いいたします。

○川上さん 札幌アイヌ協会の教育部長をさせてもらっています川上ですけども、今回、意見交換会ということで、私は、あまりよく勉強していませんので、よく分からないということで、一度、こういうことに参加させてもらって、勉強させてもらったらいいなということで、今日は参加させていただきました。よろしく願いいたします。

○北原さん こんばんは。アイヌ・先住民研究センターというところで勤務している北原と申します。

私は、1994年に大学で札幌に来まして、それから6年、札幌で過ごして、ちょっと千葉に行ったり、白老に行ったりしたんですけど、2010年からまた札幌に住んでおまして、札幌の皆さんの活動にも時々触れさせていただいたりとか、いろいろと勉強させ

ていただくことがありまして、生活館にも何度か行ったことがありますので、いい施設がまた引き続きできるといいなと思ひまして、参加させていただきました。よろしくお願ひいたします。

○田澤さん 皆さん、こんばんは。田澤守と言ひます。

久しぶりに仲間の顔がいっぱい見られて本当にうれしく思ひています。今日は、いろんな角度から話を聞いて、話をしたいなと思ひていますので、よろしくお願ひいたします。

○長縄さん 長縄と申します。

ふだん、生活館を結構な頻度で利用させてもらっているんですね。本当に川上さんと同じで、私も、今回、こういう委員会に参加したことがないんですけども、今まで生活館を頻繁に利用させてもらって、結構、不自由な面とかがあるんですね。それで、そういうのを少しでもよくというか、これから新しくしてもらえらんだったら、そういう面を少し改善していただきたいと思ひて参加しました。どうぞよろしくお願ひいたします。

○早坂さん 札幌アイヌ協会の国際・人権部長の早坂です。

今回、こうやって、みんなの声というか、たくさんのお声を聞いていただけるような会をつくっていただいて、とてもありがたいなと思ひています。

子どもたちや、いろんなお年寄りも、やっぱり行きやすい、みんなが集いやすい場所を希望したいなと思ひながらずっといまして、そういうことを伝えていければなと思ひまして、参加させていただきました。今日はよろしくお願ひいたします。

○藤岡さん 札幌ウポポ保存会の藤岡良子と言ひます。

今回、こういういい話が出たことに関しては、すごく関心を持ちましたし、やっぱり、札幌に住むアイヌたちがこぞって、みんなが集まって、楽しい、札幌にいてよかったな、こうやってみんなに会えてよかったなと思えるような場所、きちっとしたものをつくっていただきたいと思ひています。

○光野さん こんばんは。札幌アイヌ協会の理事と、それから教育相談員をしております光野智子と申します。

ふだん、共同利用館では、土曜学習会というのをやっておりまして、私は、その土曜学習会の勉強会を開催しやすい場を望んで、今日はここに来ました。それと、相談員としての相談業務が速やかにできるお部屋を望みたいということで、今日はやってまいりました。よろしくお願ひいたします。

○太田さん こんばんは。今日、私は、ここにいるはずではなかったんですけど、後ろのほうのはずだったんです。藤岡さんに引張られてここへ座ることになったんです。

それで、ちょうどよかったかと思ひんですけど、共同利用館をもう少し近いところにくってほしいと思ひます。もう年なので、駅を降りて共同利用館まで行く間、とっても危ないです。もう杖もついて歩かないといけない状態になっています。

それと、皆さんそろって、食べ物をつくって食べる習慣がアイヌにあるんです。それもできないんじゃ、みんな集まっても寂しいんですね。だから、そういうことをできるよ

うに準備とかをしてほしいと思います。

私は、太田栄子と申します。よろしく申し上げます。

○本田部会長 それでは、事務局のほうも順番にお願いいたします。

○事務局（中山事業調整担当係長） 皆さん、こんばんは。アイヌ施策課事業調整担当係長の中山と申します。本日は、どうぞよろしくようお願いいたします。

○事務局（佐々木生活相談員） 共同利用館で勤務しております生活相談員の佐々木と申します。事務局として参加しております。よろしくようお願いいたします。

○本田部会長 ありがとうございます。

### 3. 意見交換

○本田部会長 それでは、本題の意見交換に入っていきたいと思います。

事務局から資料を配付していただいておりますので、まず、事務局からの説明をお願いいたします。

○事務局（松下企画係長） 企画係長の松下でございます。

ホッチキスどめの資料1と書かれている資料をご覧ください。

まず、共同利用館の概要について、右下に2と書かれている部分をご覧ください。

札幌市共同利用館は、白石区本通20丁目南にございます木造モルタル2階建ての築44年の建物でございます。面積は、延べ床面積で約199㎡、敷地面積が約300㎡となっております。

おめくりいただきまして、次の3ページに位置図を記載しておりますが、公共交通機関で行きますと、地下鉄東西線の南郷18丁目駅から徒歩10分程度の位置にございます。

下の4ページをご覧くださいまして、昭和53年に札幌市生活館として開館しております、生活相談や講習会などを行うアイヌ文化事業の拠点として利用されてまいりました。

平成15年の南区小金湯のアイヌ文化交流センターの開設に伴いまして、旧生活館は、平成16年度から札幌市共同利用館という現在の名称に変更になっており、生活館としての機能はセンターに移行してございます。

次の5ページに平面図を記載してございます。皆様のほうがお詳しい方が多いと思うのですが、1階に生活相談員の事務室や研修室がございまして、2階に集会室や給湯室がございます。

2階の集会室等は、札幌アイヌ協会様に貸付けを行っておりまして、アイヌ伝統文化の保存、継承等の場として利用していただいております。

次に、6ページの共同利用館の後継施設の検討の必要性についてでございます。先ほども申し上げましたとおり、築44年ということで、老朽化しておりますので、まず、移転や建て替え等について検討が必要な状況となっております。また、年長者から若い世代に伝統文化を伝える機会が希少であるというような状況がございます。

このような状況を受けまして、第2次札幌市アイヌ施策推進計画におきまして、交流、

継承の場の確保に関する検討という項目を掲げております。世代間での交流を通じ、アイヌ語をはじめとした伝統文化に関する知識や経験を継承していくため、後継施設の確保に向けた検討を進めることとしてございます。

7ページ、8ページに進みます。こちらには、後継施設検討の観点を記載してございます。

1点目は、生活相談事業の継続という項目でございますが、引き続き、後継施設において生活相談事業を実施していく必要があると考えてございます。

2点目は、交流・継承の機会の確保でございます。日常的に集うことができるような施設として、どのような機能や施策が効果的かを検討していくことが必要と考えてございます。

3点目として、アイヌ文化交流センターと後継施設の役割についてでございます。

札幌市では、先ほどご紹介したアイヌ文化交流センター、サッポロピリカコタンを開設し、運営しております。多くの市民、観光客の皆様に加えまして、修学旅行ですとか、社会学習の児童生徒も多く来館する施設でございます。屋内、屋外に豊富な展示を備えてございます。

定員200名弱の交流ホールをはじめとする貸室に加えまして、木皮加工室、染色室などの機能を有した施設でございます。多様な機能があり、自然豊かな場所に位置するという特徴がある一方で、地下鉄南北線真駒内駅からバスで35分という位置にあることから、日常的には通いにくいという声もいただいております。

共同利用館の後継施設につきましては、アイヌ文化交流センターの機能なども考慮しながら、その役割を検討していく必要があると考えてございます。

次に、後継施設の目指す姿についてでございます。10月に開催されました第1回後継施設検討部会におきましては、アイヌ民族が集いやすい施設なのか、市民や観光客を呼び込む施設なのかという観点でご意見がございました。どのような施設を目指すのか、整理していく必要があると考えてございます。

次の後継施設の立地につきましては、大きく三つの方向性を記載してございます。

一つ目として、現在の共同利用館がある場所に整備する方法です。多くの方にとって慣れ親しんだ場所かと思いますが、アクセス面については多様な評価があるかと存じます。

二つ目として、市内中心部において廃止された施設の土地や建物を後利用する方法でございます。随時、情報収集を行っているところですが、現時点ですぐにお示しできるような状況にはございません。

三つ目として、さきの部会でご意見がございました公園内に整備する方法でございます。公園施設として条件に合致するかですとか、利用者や関係者の理解が必要というところが課題かと考えてございます。

また、次の項目になるのですが、国のアイヌ政策推進交付金を活用するためには、後継施設については新たな生活館として位置づける必要があると考えてございまして、その方

向で検討してございます。

次に、9ページの参考事例をご紹介させていただきたいと思います。

アイヌ政策推進交付金につきましては、国から生活館の創設等に関する事業費の上限は2億5,000万円ということで示されております。事業規模の参考にしていただくために、資料に二つの施設を記載してございます。

9ページ、10ページは、洞爺湖町に整備されましたアイヌ民族共生拠点施設のウトウラノでございます。こちらの施設は、木造平屋建て、延べ面積が494㎡の施設でございます。建築工事費が1億9,000万円となっております。展示などもございます交流ホールに加えまして、会議室ですとか、研修室、調理室を備えた施設でございます。

おめぐりいただきまして、11ページにつきましては、札幌市内の東区に整備された北栄会館でございます。木造2階建て、延べ面積が約446㎡の施設で、工事費が約2億円となっております。まちづくりセンターと地区会館が併設されておりまして、集会室ですとか、会議室、サロンを備えた施設となっております。

この2施設につきましては、事業規模の参考ということで記載をしてございます。

次の13ページに整理が必要な主な事項を記載してございます。

整理が必要な主な事項としまして、まず、後継施設の基本事項、後継施設が目指す姿がどのようなものなのか、整理していく必要があると考えてございます。

また、施設の位置ですね。どこに整備するのかということも基本的な事項として、考え方の整理が必要と考えております。

また、後継施設の機能としましては、相談機能ですとか、集会、講座、伝統料理ができる機能などが最低限必要と考えておりまして、相談室ですとか、相談員の配置、会議室や集会室、小ホール、調理室などの整備を想定しております。

その下に、事前にいただいた意見を記載させていただいております。

第1回の部会におきましては、先ほども少し触れましたが、アイヌ民族の憩いの場ということと、外に開かれた施設でよいのかどうか、検討が必要というようなご意見がございました。

また、施設の立地に関して、現在の共同利用館での建て替えがよいという意見、それから、中心部がよいというご意見、それから、公園の中がよいというご意見などをいただいているところでございます。また、複合施設ではなく、単独の施設であるということが重要といったご意見もいただきました。

次に、別紙の1枚物に移りまして、この意見交換会にご応募をいただき、参加していただいております皆様のほか、参加はしないけれどもご意見だけ出したいという方もいらっしゃいましたので、そのご意見を要約してまとめております。

時間の関係上、ごく簡単に紹介させていただくことをご承知おきください。

後継施設の目指す姿に関することとしまして、継承の場として集いやすい施設であること、それから、アイヌ民族が歴史を学ぶことができ、伝承活動ができること、身近で集い

やすい、利用しやすい施設であること等についてご意見をいただいております。

後継施設の機能に関することでは、アイヌ民族が植物や料理などを学ぶこと、民族同士が結びつきを強める機能、実習や発信などを含めた学びの機能、和人が共生に向けて学ぶ機能が重要といったご意見のほか、刺しゅうや木彫り、アットゥシ織りなどができると、道具の貸与、それから、講師の紹介などを希望するご意見をいただいております。

また、設備等に関することとして、内部をチセのようなつくりにすること、空調、子どもの利用ですとか、プロジェクター等の機器に関すること、また、駐車場の整備、それから、利用方法をできるだけ分かりやすいものにしてほしいといったご意見をいただいております。

また、裏面をご覧くださいまして、後継施設の立地等に関することとして、現在地での建て替え、駅から近い場所というご意見、それから、他の公共施設で相談業務を行うというようなご意見や、中島公園でというようなご意見もございました。

資料の説明は以上でございます。

○本田部会長 ありがとうございます。

現在の共同利用館について説明がありました。また、後継施設を検討するに当たっての視点、それから、似たような施設の整備の例、事前にいただいたご意見の概要についても説明していただきました。

本日は、時間も限られておりますので、大きく三つに区切って進めていきたいと思えます。最初に、後継施設の目指す姿について、二つ目に、機能に関すること、次に、立地に関すること、この三つに分けて進めたいと思えます。もちろん明確に区切られない部分もあるかと思えますけれども、関連する項目でご意見を頂戴できればと思えます。

ご発言の際には、挙手の上、私から指名させていただきますので、マイクを使用してお発言をお願いします。

それでは、まず1番目として、後継施設の目指す姿についてということで、30分程度、7時半ちょっと前くらいに終わればいかなと思うのですが、後継施設の目指す姿についてご意見をいただきたいと思えます。目指す姿と言うと、ちょっと硬いかもしれませんが、コンセプトというふうにも言い換えられるかと思えます。こういう姿を目指すからこういう機能が必要なのだというふうに考えていくことが大事かなというふうに思えますので、この目指す姿、コンセプトについてご意見を頂戴したいと思えます。いかがでしょうか。挙手をしていただければ、ご指名をさせていただきます。時間がありませんので、どしどしお願いいたします。

それでは、北原さんからお願いいたします。

○北原さん 先に一つ質問させていただきたいんですが、別紙の1ページのほうの一番下のところに利用料というふうには書いてあるんですけど、今、利用料がかかっているのかどうか、私は存じませんので、教えていただけないかと。もしかかっているのであれば、こういうものをなるべく抑えられれば、それだけ利用しやすさが上がるのではないかと思

ました。

○本田部会長 事務局からお願いいたします。

○事務局（佐々木生活相談員） 利用する方の全員とは限らないのですが、近郊の地域住民の方々が会議で使用するというとき、あとは、教室を開いて皆さんからお金をいただいている教室、あとは、財団で複製事業をしている方々が利用するときの使用料、そういうのをいただいております。それは結構前に役員会で決まった金額で、4時間以内で500円、4時間以上使う場合は、さらに500円として1日で1,000円、冬の期間は、11月から3月までの間は、暖房費として1回500円を頂戴しております。

○本田部会長 それでは、田澤さん、お願いいたします。

○田澤さん 確認したいことが2点ぐらいありまして、今までに、生活館の建て替えだとか、移転だとか、そういう要望がなかったのか、あればどんな要望があったのかということです。なぜ今になってこういうふうになっているのかということと、それから、今、資料1や別紙なんかでも、管理人はいませんか。生活相談員が管理人を兼務するっていうことはどういうことなのかっていう確認ですね。それは生活相談員の業務とは関係ないじゃないですか。それを一緒にする理由は何なのか、それから、生活館は、昔、よくお通夜とか、そういう冠婚葬祭の事業にも使われていた経緯があって、今は許可されないのかも分かんないですけど、宿泊施設も兼ねていたと思うんですけど、そこもちょっと教えてください。後継施設の目指す姿についてと出ているんで、それと、過去に私が札幌アイヌ協会に在籍していたときには、札幌市は200万人都市なんで、この事例にあるように、今、洞爺湖町には、人口が何万人いて、アイヌが何人いるのかは分かんないですけど、各区に生活館を要望していたと思うんですけど、そういうことは考えられなかったのか、それから、こういうふうな事例を出すと、北栄会館とか、それから、いろんなところがあって、各区にできているじゃないですか。何でアイヌはできないのかな、何でそういうふうな考えられないのかなというふうに思います。

あまりちょっと、まだほかにも質問がありますので、よろしくお願いします。

○本田部会長 事務局からお願いいたします。

○事務局（松下企画係長） まず、1点目の生活館に関して、なぜ今のタイミングで検討しているのか、これまで要望がなかったのかという部分につきましては、生活館について、10区に生活館を建ててほしいというご要望はいただいていたと認識してございます。現在の共同利用館につきましても、要望ではございませんが、駅から遠くて通いづらいというような声もこれまでいただいておりますので、そのような点も含めて、今回、共同利用館の後継施設として具体的な検討を進めていくために、このような場を開催しているというような状況でございます。

生活相談員が共同利用館の管理を行っていることにつきましては、生活相談員の職の設置の要綱の中で役割ということを規定しております、共同利用館の管理に関することも業務に含めて携わっていただいております。

といいますのも、共同利用館の全てを貸し付けているわけではございませんで、生活相談室ですとか、その隣のお部屋につきましては、行政財産として今でも札幌市が直接利用する形を取っておりますので、施設の管理としては、生活相談員の業務として担っていただいております。

宿泊に関しましては、現在ではそのような利用のされ方はほぼないかなと思っております。後継施設につきましても、宿泊施設というようなお声については、今まであまりいただいたことがなかったかなと思いますが、今回の意見交換会も含めて、様々なご意見を集約していく中で、検討していきたいと考えてございます。

○本田部会長 田澤さん、お願いします。

○田澤さん 今の宿泊施設と、それから、相談員が管理人を兼務している状況を踏まえて、おかしいと思わないですかね。相談員が相談業務をやっているときに、ほかの人たちが使いたいときに使えないじゃないですか。いないときはどうするんですか。何で相談員の仕事を拘束するような規約みたいなことをつくるんですか。相談員は、札幌アイヌ協会の相談員じゃないんですよ。札幌市内、札幌近郊にいるアイヌの相談員なんですよ。それをその1施設に縛りつけるようなやり方っていうのは、ちょっとおかしいんじゃないですか。

それと、宿泊施設がその生活館にないようであれば、今、目指しているものが、ここでいろんなものが挙がってきたじゃないですか、要望が。人が集うときに宿泊もできない、だったら宿泊施設が近くになればいけない。全道から、もしかしたら全国から人が集まってくるのに、そういう施設がなかったら簡単に交流はいかないですよ。そこまで考えてやらなければいけないんじゃないかなと思っております。

○本田部会長 ありがとうございます。

目指すべき姿として、そういうご要望があったということで受け止めさせていただければというふうに思います。

○田澤さん 相談員のやつは、全然それと違いますから、ちゃんと答えを求めてください。

○本田部会長 ごめんなさい。今の状況に対するというよりも、申し訳ありません。今回のこの集まりは、今後どうするかということに絞って話を進めていきたいなというふうに思っています。

○田澤さん だからですよ。今現在がそういうことになっているので、だから今後はどうするかということ、ちゃんと市の言質を取らなければいけないのですよ。

○本田部会長 ごめんなさい。多分、この方々では言質が取れないと思います。ごめんなさい。言っちゃいますけれども……

○田澤さん 言質が取れなくても、市長に要望を出すとか、いろんなことがあるじゃないですか。

○本田部会長 そう思います。ですから、こういうことを今回要望の中に入れて出すという形にしていければというふうに思っていますが、おかしいでしょうか。

○田澤さん ちゃんと確認を取ってください。

○本田部会長 要望の中に入れていただけますよね。

○事務局（松下企画係長） はい。

○本田部会長 それでは、光野さん、お願いします。

○光野さん 田澤さんの今現在の共同利用館の状況についての要望なんですけれども、宿泊ができないってところもありまして、今回、今日の会議に出るために、いろんな地域の利用館の情報を聞いてまいりました。そうすると、中には、宿泊施設もちゃんと用意してあるという利用館もありました。それはなぜかという、子どもたちの宿泊体験とか、札幌でもやっておりますけども、エカシフチとの交流で1泊2日を通して伝承してもらってということもやっていますので、そういうためには宿泊施設も必要なんじゃないかなと思います。

○本田部会長 長縄さん、お願いします。

○長縄さん 今、田澤さんと光野さんが言ったことは、イコール、やっぱり管理体制をきちっとしてもらわないと困るってことですよね。今は相談員の佐々木さんがいる時間だけを利用してって感じなんですけども、宿泊だの、夜にちょっと使いたいよっていうときに、管理してくれる方がいないとやっぱりきちとならないから、その辺をきちっとしてほしいんですよね。管理体制ですか。

○本田部会長 早坂さん、お願いします。

○早坂さん 2年ぐらい前だと思うんですが、生活館の在り方みたいなことを聞いたときに、札幌市としては、生活館は宿泊をするという条件はつかないっていうような話を聞いたんですよね。交付金についても使うのに宿泊施設が中には盛り込めないという話もお聞きしたこともあったので、そこら辺を言わせてもらおうかなと思いました。

それと、後継施設、目指す、これからどうしてほしいかという私の要望を言わせていただきたいなと思います。

私は、小学校1年生と2年生の孫がいるんですが、今の場所だと、親が連れていけないとなかなか行ける状況ではないんですね。それがまちの中にあっただけだったら、地下鉄で行って、子どもたちが2人で行って、2人で帰ってこられるような場所をやはり一番希望したいなと。土曜学習会は、せっかくやっているんですが、親の仕事がないときじゃないと行けないというとても大変なことになっているのはもったいないというのと、あと、今年でしたか、大雪でとても大変だったんですね。共同利用館に行くのに、2時間とか2時間半、3時間かかったっていう人も、練習に行くのにかかったっていうのがあると、やはり場所が、徒歩で10分って書いてありましたが、太田さんも足が悪くなって動けなくなってきたときに、10分で行けるだろうかと。雪道になったときに、その悪い道を10分でなんてとても歩ける場所ではないということなので、意見にも書かせてもらったんですが、やはり場所は移動して、中心部の中にあって、みんなが行きやすい場所で、今の共同利用館よりももっと施設的には立派なものが欲しいですし、もちろん交流場所があって、相談室もしっかりとあって、みんながすぐに行ける場所っていうのを希望したいんで

すが、ただ、2億5,000万円しかない中で、そういう新しいものをつくれるかといったら、そうではないと。これからまた場所を探すのにも時間がかかってくるし、今のところだったら場所はあるから、崩せばすぐ建てることのできるの、経費的な問題もないからって話も、多分、第1回の部会の議事録を読ませてもらったらあったと思うんですが、そこで時間がかかるかもしれない、先になってしまうかもしれないってなったとしても、これから私もどんどん年を取って行って、生活館に行きたいけど、どうしましょうかと。車もないし、あそこまで歩いていくかといったら、やっぱり行けない状況になってくる可能性があるの、やはり時間がかかったとしても中心部の方向で検討していただければなってというのが私の意見です。

以上です。

○本田部会長 ありがとうございます。

立地については、3番目でまたしっかり議論させていただこうかなと思います。でも、今のご意見は、すごくありがたいご意見だなというふうに思いました。

目指すべき姿というのは、なかなかちょっとぼわーっとしているかもしれないのですけれども、例えば、先ほど出ていたように、アイヌ民族がそこに集まる、集うというのはすごい大事だと思うのですが、そこだけなのか、それとも、和人の利用、あるいは、札幌にこれから来るような観光客とか、そういうようなこととか、どういうところでどういうコンセプトの施設にしていくのかというのがとっても大事なような気がするのですけれども、そこについてのご意見はないでしょうか。

田澤さん、お願いします。

○田澤さん 今の本田さんの意見に私は大反対です。何でまた和人なんですか。アイヌの施設、みんなの集う場を考えているときに、なぜまた和人を入れなければいけないんですか。ちょっとおかしいじゃないですか。

○本田部会長 そういうご意見がありますが、いかがでしょうか。

○早坂さん 和人の人でもアイヌの人でもみんなが集える場所がやっぱりいいのかなってというのが、帯広のほうにある生活館ってというのが、ふだん、もちろんアイヌの人たちも使っているんですが、和人の人たちもお琴の練習で使っていたり、いろんなところで使っていて、とても市とか町とかそういうところで本当にしっかりとした生活館っていう形があるのを目の当たりにしているの、これから、私たちの共同利用館というか、生活館なんだっていうよりは、やはり市民の方たちも集えるような場所であっていいのかなとも思うので、やはり広さであったとしても充実したところがあると、あと、やはり、太田さんも最初に言っていましたが、料理だとか、そういうのも、子どもたちと一緒に料理をしながら食べたりするっていう場所も、やはり今の共同利用館ではなかなか狭くてできない場所でもあるし、ピリカコタンまで行くってなったら、もうみんな本当に大変で、太田さんだったら2時間から2時間半かかって行く場所だってしまうと、なかなかみんなが集える場所ではないので、やはり本当に施設として充実した場所があるとよいなと思い

ます。

以上です。

○本田部会長 光野さん、お先にお願いたします。

○光野さん 私は、使用者について、アイヌ民族が使用するということにすごくこだわっておりますので、和人の方とか、貸館などはしないほうが良いと思っております。

○本田部会長 それでは、長縄さん、お願いたします。

○長縄さん 私は、今の光野さんの反対の意見で、今の場所は、複製事業とか、そういうので、大体、生徒さんっていうのは和人なんですよね。アイヌに関係ない人が多いんです。だから、それを駄目だと言われてたら、私たちは教えるところがなくなっちゃって、ちょっと困る……

○光野さん 長縄さんはアイヌだから大丈夫。

○長縄さん だから、生徒さんがアイヌの人じゃないですよ。

○光野さん 文化伝承の場だったらいいと思う。

○藤岡委員 皆さんの言っていることは間違っていないのだと思うのです。田澤さんの言いたいことは、どこまでなのか、もうちょっと聞きたいと思うし、光野さんが言っていることもすごい分かるし、アイヌにだけ貸したいという意見なのですよ。

○光野さん 文化伝承だったら大丈夫です。

○藤岡委員 大丈夫なのですよ。多分、文化伝承のために関わる和人の方々の出入りを禁止するとか、そういう意味ではないのだと思うので、田澤さんのは、和人を入れるなみたいな感じに聞こえて止まっちゃっているから、もうちょっとやんわり説明していただければ助かります。

○田澤さん 問題の仕分けをしてください。札幌市の問題とアイヌの問題を一緒にしないことです。一緒にのほうが札幌市は簡単でいいですよ。アイヌに一般の和人も交流できる施設にしてくださいと。それは、本来は、札幌市が別に交流施設をつくるという考えでないと、ほかのいろんなことをやっても、また和人のためにとか、いつもそういうことを繰り返してくるじゃないですか。なぜアイヌ自身が和人側の視線を気にしながら生きていかなければいけないんですか。アイヌが楽しく集って、楽しく伝承活動して、喜ばれるものをつくるんじゃないんですか。和人側に喜ばれるものをつくるんですか。

○本田部会長 おっしゃるとおりだと思います。私は、さっき批判されましたけれども、言っておきますが、そういう和人の施設をつくる気はさらさらなくて、貸館もどうなのかな、それはおかしいのではないかと。でも、一応、意見をいろいろ出していただいたほうが良いので言ったので、私の意見ではなかったのですけれども。ごめんなさい。

○多原委員 皆さんの本当にいろんな意見を聞くことができ大変いいなと思っております。今回は、いわゆる第2次札幌市アイヌ施策推進計画の中にあるように、アイヌ民族が、世代間での交流を通じ、アイヌ語をはじめとした伝統文化に関する知識や経験を継承していくために、そういった施設をとということです。ですから、それぞれ皆さんがおっしゃっ

たのは、貸館について、全くアイヌが使わないときの貸館は、今もそうですけれども、それはあってもいいかと思えますけれども、主体的に、このようなもともとのこの施設は何なのかということが根本だと思えます。

アイヌ民族のいわゆる文化と言われる中にも、今言われたように、子どもの教育があったり、それから、文化伝承という中には、アイヌ語から刺しゅうから、木彫りから料理と、様々なものがありますから、それをしっかりできる場所を検討していくことで、やっぱり、いわゆる一般の方の施設は札幌市内にたくさんあります。本当にもうどのぐらいあるか分からないくらいたくさんあります。ですから、先ほどの各区に生活館をつくってほしいというのは、数十年前から札幌アイヌ協会としては言ってきておりますけれども、今回、この交付金事業で何とか狭隘化して老朽化した共同利用館を建て替えていきたいということですから、やはり、今までやってきたことよりも、もう少し使いやすく、いろんな意見を言えば、集いやすい場所だとか、広いところだとか、様々なことがあると思えますけれども、皆さんそれぞれいろんな意見を出していただきながら、やっぱりアイヌが本当に主体的に使える場所が私は一番望ましいと思っております。

○本田部会長 川上さん、お願いいたします。

○川上さん 今まで、生活館っていうのは、札幌アイヌ協会のためにそういう生活館を建てていただいて、その後、札幌市共同利用館っていうふうに、今も田澤さんが言ったように、和人の人も一緒に共同であるそこは使うようになりましたよね。それで、その建物を建てる、まだ継続していただけるかどうかという今の問題なんですけれども、札幌市のほうでは、今までのところでは、ちょっと駐車場が狭くて、施設も狭くて大変じゃないかという考えで、どこかに移転をして、交通の便利ないところに移転して、また生活館として建てていただけるのか、共同利用館として建てていただけるのかっていうことは、もう検討していらっしゃるんでしょうか。

○事務局（松下企画係長） 今の検討は、現在の共同利用館の後継となる施設をどうするかという検討ですので、今の共同利用館の場所で後継施設を建て替えるのか、もしくは、別の場所で建てるのかということで、現在、検討している施設としては、何か一つをイメージして検討しているという状況でございます。

○本田部会長 コンセプトは、機能にも関わってきますので、そこでまたご意見をいただきたいと思えます。

そうしましたら、（２）のほうに行きたいと思えます。８時過ぎくらいまで議論をしたいのですが、後継施設の機能については、先ほどの事務局からのご説明では、相談室、相談員の配置、会議室、集会室、小ホール、調理室などを想定しているということでした。

事前にいただいたご意見では、どのような部屋が必要ですかとか、駐車場、備品に関することに加えて、施設の整備後に実施する事業に関する事など、幅広くご意見をいただいています。この点について４０分程度でご意見をいただきたいと思えます。機能につい

てのご意見を頂戴できればと思います。

光野さん、お願いいたします。

○光野さん まず、一番最初に言いたいところは、年配、お年寄りの方が使いやすい施設、それから、女性が使いやすい施設が一番いいと思っております。あと、図書室のような勉強ができるお部屋の機能が欲しいです。

あと、ほかの施設の方に聞きますと、とってもいい会館ができたけれども、収納スペースがすごく少なかったっていう意見があったので、収納スペースも大事だなと思います。

以上です。

○本田部会長 ほかにいらっしゃいませんか。

長縄さん、お願いいたします。

○長縄さん ちょうどコロナになった年だと思うのですが、今の共同利用館は、エアコンがなくて、ものすごく暑い年だったんですよ。それプラスマスクで、二、三時間の仕事なんですけど、とてもじゃないけど暑くて体がおかしくなって、熱中症みたいになっていうのが何回かあったんです。だから、夏は、エアコン、クーラー、冬は暖房、あとは、空調っていうんですかね。今、こういうコロナの時代だから、そういうのはきちんとしてほしいというのがまず一番です。

○本田部会長 ほかにございませんか。

藤岡さん、お願いいたします。

○藤岡さん いろいろ出ているんですけども、やっぱり子どもたちは子どもたちで遊べる部屋が一つ欲しい。我々保存会が集まると、30人から40人になる。その中に子どもが10人から20人くらいいるんですね。ですから、練習ができるような場所として、今の倍は欲しいね。

○本田部会長 ほかにないでしょうか。

北原さん、お願いします。

○北原さん 先ほど光野さんがおっしゃった女性が使いやすいというのは、私もそのほうがいいと思うんですが、具体的にこういうところがついていうのがもしあれば、教えていただければなど。例えば、宿泊の機能を持たせる場合には、ここは女性しか入れないとか、そういうようなことが考えられるのかなというのと、今、藤岡さんから子どもがついていう話があったんですけど、例えば、児童会館みたいな機能を持たせて、小学校を終えた子どもたちがそこで宿題をやったり、アイヌのことも時々勉強したりみたいな機能を持たせることができれば、それはそれで有用なのかなと思ったんですが、それはいかがかなというご提案です。

○本田部会長 ありがとうございます。このご意見に対してでも結構ですし、ほかのご意見でも結構です。何かないでしょうか。

田澤さん、お願いします。

○田澤さん いっぱいあり過ぎると思うんですよ。あっていいと思うんですけど、せっか

くアイヌの集う場所って考えた場合に、全国につながる施設、情報もそうですし、何で管理人に私がこだわるかといったら、相談員は、あくまでも生活相談員。本当は、あそこに教育相談員も一緒にいて、職業相談員もいて、相談業務がきちっと整って、さらに全国とつながる。せっかく札幌がつくるのであれば、全国とつながるアイヌ施設であると。そこには、先住のそういう、なんていうんだろう、学芸員になるのか、事務局になるのか分かんないですけど、情報を札幌が中心になって発信できる、そういう場になればもっといいなど。札幌のアイヌだけじゃなくて、やっぱり、ここにも、北海道、樺太、千島って書いていくらいっぱいいるはずだから、お互いの歴史や文化を知る機会にもなると思うし、北海道アイヌの歴史、文化だけじゃなくて、やっぱりいろんな歴史、文化を知りたい、私はそう思いますけど、いかがでしょうか。

○本田部会長　いかがでしょうか。私は、本当にそのとおりだなというふうに。むしろ、今のご意見は、単なる機能というよりも、目指すべき姿やコンセプトをおっしゃってくださったような気がしますので、これはしっかり盛り込んでいただければというふうに思います。

岡田さん、お願いします。

○岡田さん　今、田澤さんがおっしゃったようなこととも関連してくるかなと思うんですけども、この施設直接というよりは、人的な問題ですが、生活相談員ありきというような形で運営されていくものと感じているんですけども、そういった場合、先ほども、ちょっと前に出ていましたように、利用時間の問題ですとか、負担が大きいし、使う側も不便なことがあるとお聞きしました。なので、新しい施設ができるということで、その人的な補強というか、手当があつていいのかなというふうに思いました。例えば、もう一人増やすとか、もうちょっと手当を弾んで頑張ってもらうとか、そういったようなことがあつて、田澤さんがおっしゃったような発信機能とか、いろいろな機能っていうものが期待できるんじゃないかなと思います。やはり人的な部分の強化というのは必要かなというふうに思いました。

以上です。

○本田部会長　ほかにいかがでしょうか。

早坂さん、お願いします。

○早坂さん　さっき言っていたのとちょっと関係が出てくるんですが、やはりそうやって管理人とかが必要であるってなってくると、やはりみんなが集える場所っていったら、アイヌも和人も関係なく集える形でしたら、管理人を配備することも可能になってくるのかなっていうことと、あと、もちろんアイヌのための施設なんだけれども、和人の人たちが来たとしても、アイヌの人たちの文化っていうのをそこに来ることによって触れることもできるということがあると思うんですね。見ることもできるし、踊りの練習をしていたら聞くこともできて、そういうところが自分たちの文化を一般の人たちに周知することにもつながっていったりする部分があると私は思っているので、まして、中心部で発信場所だ

っていう形、アイヌの中でも、やっぱりこの札幌の都会で中心部から何かを発信していく場所になっていくのであれば、余計にいろんな人たちが本当に集えるような場所であるほうがいろんなことを発信していく可能性も出てくるのかなと考えながら聞いていました。

なので、機能的なことを考えていくと、発信場所って考えていったら、もちろん、ラジオ放送ができるじゃないけど、そういうこともできたりとか、あと、自分たちの文化を発信するための、もちろんアイヌ協会としてしっかりとホームページができていて、そこから文化を発信することも、いろいろな可能性を含めた部分の機能とかがあるといいなと私は思っています。

以上です。

○本田部会長 ほかにいかがでしょうか。

岡田さん、お願いします。

○岡田さん このタイミングで質問なんですけど、この建て替えはアイヌの交付金を使う前提ですよ。交付金を使って建てた建物で、例えば、全く関係ない貸館でお琴教室とかをやったりすることは問題ないんですかね。

○事務局（松下企画係長） 詳しい使い方については、国にも確認しなければならないと思うのですが、現状の各地の生活館の中でも、必ずしもアイヌ文化に関連しなければならないというような使い方ではなくて、全く関係ないような使われ方をされている場合もありますので、そういったものも可能ではないかなと思いますが、実際には国への確認が必要かなと思います。

ただ、施設の主たる目的としては、やはりアイヌ文化に関することになるのかなというふうには考えております。

○本田部会長 ほかにいかがでしょうか。

北原さん、お願いします。

○北原さん 今、お琴教室の話が出たんですけれども、私もほかの地域の生活館を利用している方の話を聞いていて、やっぱり、全く関係のない和人の団体のフォークダンス教室であるとか、フラダンス教室であるとか、社交ダンス教室であるとか、そういうものが目いっぱい入っていて、いざ自分たちが練習したいっていうときに使えないっていう声も結構聞くんですよ。

なので、仮に開放するとしても、目的と時間はやっぱり制限するべきじゃないかなというふうに思うんです。ある程度いつでも空いていないと、今日は集まって練習できるとか、急遽、あの人が来るから集まりたいとか、そういうことに対応するのが難しくなるっていうことが一つあるかなと思います。

それから、機能ということかというと、私は、やっぱり、アイヌ同士が集まれる場所、ウタリ同士が安心できる場所ってというのがすごく大事な機能だというふうに思っていて、カナダの大学とかに行くと、先住民の学生だけが集まる場所っていうのがあるんですね。やっぱり、非先住民の学生とか、教員とかといると、緊張するっていうことがあって、じ

や、非先住民側は先住民を圧迫してやろうと思っているかっていうと、そんなことはないんですけども、本当にちょっとした価値観の違いとか、言葉の端々に感じるものとかってというのがあって、緊張したり、嫌な思いをしたりすることがあるっていうので、そういうことがない、ここにいたら安心できる場所っていうのを大学の中につくっているんですね。それが私は非常にいいと思っていて、北大の中にもそれをつくりたいと思っているんですけど、生活館って、やっぱりそういう機能が重要じゃないかと思うんです。

関東ウタリ会のほうでも、私は、関東ウタリ会っていうところで育ったんですけど、やっぱり和人が集まってくるんだったら自分は行きづらっていう人が結構いて、それで、関東ウタリ会は、アイヌかアイヌの配偶者だけっていうふうに限定した集まりをしているんですね。和人と交流する場所は別にというふうにして、やっぱりそういう人ってまだまだ多いんじゃないかと。今、物すごく前面に立っているいろんな活動をしている方っていうのは、もうかなり自信があって、どんな和人が来ても自分は自信を持って接することができるっていう人なんだと思うんですけど、そういう人って割と限られていて、だからアイヌ文化財団の事業の利用者とかもそんなに増えないわけですよ。

なので、これからアイヌの輪の中に入ってくるウタリを増やしたいというふうに思ったら、今、来づらいなと思っている人たちがどうやったら来やすくなるかっていうことを考えたほうがいいんじゃないか、そうすると、この曜日はウタリ以外は使わないとか、この時間帯はとかっていうものをつくっておかないと、やっぱり、アイヌ文化が大好きで、でも、今のアイヌがどう思っているかっていうことはよく知らなくて、無神経なことを言ってしまうアイヌ文化ファンが集まって、そういうところには行きたくないっていう人はやっぱり相変わらず来ないんじゃないかっていう気がするんです。

○本田部会長 ありがとうございます。すごく大事なご指摘だと思います。

ほかにいかがでしょうか。

田澤さん、お願いします。

○田澤さん 北原さん、ありがとうございます。大賛成です。

使い分けをしたらいんじゃないですか。せっかく小金湯にそういう施設があって、あそこは、アイヌの施設っていうよりも、誰でも使える施設、誰でも利用できる施設です。そこを、皆さん、和人が旅行で来たらそういうところを利用する。要は、生活館は、アイヌの生活感がにじむところ、本音で語り合えるところ、集えるところっていうのが生活館だと思うんですよ。そこにあって和人がアイヌの理解者だからって入れる必要がどこにあるのかなど。そこだったら、センターに行っているいろんなことを語り合えばいいじゃないですか。アイヌが語り合える場所をつくりましょうよ、いいかげん。どうですかね。

○本田部会長 おっしゃるとおりだと思います。

私からちょっと情報提供みたいなことなのですけれども、釧路の生活館が今新しく建っているのですよね。この前、近くまで行って、塀のところから伸び上がって見てきたのですけれども、なかなか立派な施設でした。

それに関して、前に、地元の方々のご意見で、やっぱり同じように常駐する人が欲しいということを釧路市に要望しているらしいのですが、なかなかそこは難しいのですね。そのときに、釧路市の、まだどういう形になるかは分からないのですが、アイヌ文化関連の資料がいっぱい置かれていて、それが目当てで、今まではやっぱり来られている人もいます。だから、それは、アイヌの方ではなくて、和人の方でアイヌ文化を勉強したいという人が、博物館まで行かなくても、アイヌのことをやりたいという人がやっぱり来られると。そういうときに全く説明する人間がいないとか、そういうのは困るのでというやり方で人を常駐させるという方向に持っていけないかなくらいのお話でした。

だから、まだ全然決まっていないのですが、私は、子どもたちが集まる場だとしたら、やっぱりアイヌ文化の展示はすごく必要だと思うのですね。みんなで集まって勉強するというのもすごくいいことなのですが、小さいときからアイヌ文化のすごくいいものを見て育て初めて、アイヌ文化に対するリスペクトも、それから誇りも、それから物を見る目というのが養われるというふうに思っているので、私は、やっぱり小さい子どものうちからアイヌ文化のすばらしい資料に触れていったらいいなと思うので、そういう場所とセットにして何かうまい仕組みがつくれないものなのかなというようなことも考えたりしています。

でも、そうすると、さっきから出されているようなアイヌの人たちだけが本当に心が休まるような施設というところから、そういうような要素を入れれば少し遠ざかっていきますよね。だから、どういうものにするのかということが多方面から考えて進めていく必要があるかなというふうに思っています。

何かご意見をお願いいたします。

多原委員、お願いします。

○多原委員 私も、前回、委員だけで話をしたときも、たくさんアイヌの施設が札幌市内にあるのであれば、また皆さんがいろんな意見を出されたようなことも可能なかと思えますけれども、今、何人かの方がおっしゃっていたように、アイヌが本当に安心して集える場所というのは、今、本当になかなかないのですね。そういったことで、できれば、私は、複合施設ではなくて、単独の施設でアイヌがいつも集える場所。

一つ、いろんな海外の事例ばかり言うと、何か変に聞こえるかもしれませんがけれども、例えば、会合で、何か会場で、今日はアイヌ語教室をやるよ、踊りをやるよということじゃなくて、いつも行きたい人が行って、ここに集っている。例えば、高齢者の方々が食べ物をつくって持っていったり、そこで刺しゅうをしたりとか、昔話をしているところに学校から帰ってきた子どもたちがそこに寄って、いろんなことを自然にエカシフチから学ぶ、交流する、また、エカシフチも子どもからいろんなことを聞くという、何かそういう自然な場所が本当に札幌には必要じゃないかと思うのですけれども、もう一つ、本当に、北海道とカナダで、ノースウエストテリトリーズというところに一度行きましたけれども、そこでは、非常に遠いところから先住民の人たちが病院に通うためにまちに来るのですね。

その場合に、ホテルに泊まったりすると、言葉もなかなか通じないし、治療をするのに何か月間もかかる、いつも食べているようなものを食べないと、さらに体調が悪くなってしまふということで、きちんと先住民族の施設があつて、いつも食べているようなものをスタッフがつくって食べさせてくれる、そこから病院に通ったりして、きちんと体を治していくという、そういう場所は本当にすごいなと思ひまして、北海道も、私たち札幌にいるアイヌはほとんどが地方から来た者ばかりなのですね。もともと札幌というのほとんどないと思ひます。ですから、やっぱりそういうことから考えると、そういった施設が本当に重要かと思ひますので、いわゆる今決まったようなアイヌ文化だ、アイヌ文化だと言われることばかりじゃなくて、精神文化だとか、いろんなことを聞いたり、交流したりして学んでいく、やっぱりほっとするとか、アイヌ同士が集えてよかったと思へるような施設をぜひ、これから10館も20館もできるのならいろんな施設をどんどんつくっていただきたいのですけれども、やっと2番目ですからね。そういった意味で、全てのこれからの目指す姿、機能、立地条件、そういったこともいろいろあるでしょうけれども、その中で、ぜひそういったことを入れた施設ができるといいなと思ひております。

○本田部会長 ほかにいかがでしょうか。

○田澤さん 私は、生活館事業っていうのにあまりいいイメージがなくて、過去、北海道中に生活館ができたときに、アイヌがほとんどいないところにも生活館をつくって、いつの間にか、アイヌの施設じゃなくて、和人の施設っていうのが、本田部会長も知っているように、全道にあちこちある。アイヌの人って優しいんだなって。軒先を貸して、そのまま取られてしまつて、いつの間にかアイヌは出入りしないで和人の人たちが中心になって使うようになって、アイヌが使うときにはなかなか使えない、そういう施設をずっと見てきて知っているんで、北海道に一つぐらいアイヌの先住の生活館があつていいじゃないですか。そこは、本当に機能を重視して、管理業務、事務局、相談員は別なところ、ちゃんと相談員がアイヌのために相談業務ができる場所っていうのは、それでないと個人情報も何もないんですよ。相談員が全ていろんなことをやっているじゃないですか。それはおかしいですよ。相談にも行けないですよ。そんな施設じゃ駄目です。相談員に生活相談やいろんなことを相談できる環境じゃないと駄目ですよ。もう脱却しましょうよ。

○本田部会長 光野さん、お願いします。

○光野さん アイヌがいつも集える場所、子どもたちがそこで自然と学べる場所、資料がいっぱい置いてある場所っていうのは、すごく夢のまた夢なのかなって思ひますが、もし土地に余裕があるのであれば、資料を置いたり、それから、展示物を置いたりして、玄関先でもいいので、そういうのを置けたらいいなと思ひます。

そして、さっき本田先生が釧路の利用館をのぞいたって言ひていましたけども……

○本田部会長 堺の外から……

○光野さん いやいや、そうなんです、この委員の代表の方たちでもいいので、いろんなところを巡つて、いいところと悪いところの聞き取りとか、そういうのをしたらいいな

って、その他で意見を言おうかなと思ったんですが、そういうツアーなんかも組んでみてほしいなと思います。

○本田部会長 事務局には、ぜひご検討いただければと思います。

ほかにございませんか。

早坂さん、お願いします。

○早坂さん 私は、どうしても前に発信していきたいタイプなんであれなんですけど、結局、機能として、皆さんの言っていることはすばらしいなと思うので、それを実現できたら本当にいいなって思えたのと、ここに書いてあった「ホールや会議室、和室、調理室、作業室など、利用しやすい」のもっと上に「刺しゅうや木彫りなどの工芸品づくりに必要なものを備えた部屋があるとよい」っていうのがあるんですけど、もしそういう生活館っていうアイヌの人たちのための施設ができたとして、こういう工芸品をつくるために必要な機材だとか、そういうものを整備することって可能なのかな、できるのかなっていうのが一つ聞きたかったことでありました。

ここで、自分たちの発信する場所、やっぱり機能等のことをずっと考えていたんですけど、私たちの周りのアイヌの人たちって、みんな元気な人たちが多かったので、北原さんからの意見とか、ああ、そうか、そうなんだなっていうのが、昔のうちの母なんかもそうだったんですけど、今はもうすっかりと変わったっていうのがあったので、もうみんながそう変わっていているっていうか、私の頭の中の考えが違ったんだなっていうことをちょっと実感させていただいたんですが、でも、自分たちがもちろん安心して集える場所をつくるには、機能的にどういうものが必要なかっていうのが、今のところ考えつかなくて、どういうものが本当に必要なものなのか想像がつかなくなったっていうところが一つあったので、今後、みんながそれぞれ、もっともっとアイヌの人たちが集えて、もっと発信できる場所になったときに、もっとこういうことができたはずなのによっていうことが今後出てくるんじゃないのかなっていうのもちょっと考えたところだったので、それを意見として言わせていただきました。

以上です。

○本田部会長 大事なご指摘だと思います。

田澤さん、お願いします。

○田澤さん 工芸、刺しゅうをアイヌの文化って言いますが、それを販売目的だったり個人の利益を中心に考えるんだったら、それは本末転倒。本当に大事なことを後継する施設だったら分かります。でも、私のつくったものをどっかで販売するためにそこを利用するんだったら、それ相応にちゃんと施設料を払ってもらうことは前提になります。これは公平な見方です。そうしないことには、個人の施設になっちゃいます。そういうことを求めているわけじゃない。だから、何が伝統文化だとか、何がアイヌ文化だとか、どういうことが必要なんだっていうのは、これから議論をもっとしていかないと、個人の施設は求めちゃ駄目です。

○本田部会長 今のご意見はいかがでしょうか。ご意見はないですか。

北原さん、お願いします。

○北原さん 早坂さんがさっきどういうものを結局目指したらいいのか見えづらくなったとおっしゃったんですけど、今ここで出てきたようないろんな機能というのがそのままこれでもいいんじゃないかというふうに思うんですね。アイヌが集まって何をするっていうときに、別に、ただ雑談をしてもいいし、それこそ物づくりを教わってもいいですし、私の知り合いで研究をしているウタリは、自分が若い頃に知れなかったことを今自分で勉強して人に話せるようになって、それ自体が自分の気持ちが回復することにつながっているというふうに言っていて、必ずしも何か特別なことをする必要はなくて、今やっているようなことをそこでやればいいんだと思うんですね。ただそこに安心して集まれるっていう要素が加わって、今まで来なかったような人が足を運んでくるようになるといいんじゃないかと思います。

早坂さんにも、去年、じっくりお話を聞いたことがありましたけど、ああいうふうにしていろんな人に私はお話を聞いているんですけど、20年も30年も前から知っているのに、こんなことは話したことがなかったねっていう話が幾らでも出てくるんですよ。だから、じっくり話すっていうことだけでもすごくいい効果があって、そういう機能が大事なんじゃないかなと思います。

やっぱり、そうは言っても、工芸を紹介したりとか、発信したりとかっていう場所が欲しいという要望もやっぱりあると思いますので、その場合は、時間を限るとか、曜日を限るとかっていうことですみ分けができないかなと私は思います。

○本田部会長 いかがでしょうか。

田澤さん、お願いします。

○田澤さん すいません。付け加えます。

昔、大倉山で共同作業所をみんなで作ろうってやったときに、結局、個人が実権を握って、その大部分が作業員になって、最後にその実権を握った人が利益を多大に得たという実態があります。それは札幌市も把握していることだと思うんですけど、今、早坂さんが言ったようなことを実現したいのであれば、そういう施設を、アイヌにとってこういうものを別なところでちゃんと要求しなければ。機動職業訓練もなくなったんですよ。刺しゅうも木彫りもなくなった。そのおかげで、今、皆さんは刺しゅうができていますよね。

私の知る限りでは、あの機動職業訓練はすごく効果があって、今、本田さんのところも似たようなことをやっているじゃないですか、大学で。大学でやるのか、本来、職業訓練でやらなければいけないことを本田さんがやっているのかは分かんないですけど、そういう施設はちゃんと求めないといけないと思います。別だと思しますので。

○本田部会長 早坂さん、お願いします。

○早坂さん 別に必要なものを備えた部屋が個人的に必要なだって言っているわけじゃないですからね、私。それだけは間違わないでほしいなと思って。

ただ、今、ピリカコタンにも、一応、ちゃんといろいろあるじゃないですか。奥のほうにいろんな木材を加工するものがいっぱい置いてあるんですけど、それはあまり活用されていない部分もあるからどうなのかなって言うのとか、ちょっといろんなことを考えて発信させていただきました。

○田澤さん 発信してくださいって言えばいいんだよ。

○早坂さん いや、そういうことで思っていたんですよ。なので、自分が個人的に工芸品づくりに必要でそれが欲しいって言っているわけじゃないので、それだけは間違えないでほしいなと思います。以上です。

○本田部会長 ほかに、ご意見が少ない方々もいらっしゃるような気がするんですけども、いかがですか。

石井さんはいかがですか。

○石井さん まだちょっと……。

○本田部会長 後でまた。では、川上さん、伊藤委員はいかがですか。

○伊藤委員 第1回の部会が終わった後に、初めてそのときに共同利用館に行ったので、ちょっと中を見せてもらったのですよね。そのときに、かつて共同利用館を利用していた方々がつくった民具とかが置いてあって、それはやっぱり先人の方たちがつくってきた一つの文化だったりとかの残りなので、それを見て、やっぱりそれを今後も継続していきたいなと思ったのですよね。なので、共同利用館を使用してつくったものとかは、やっぱり、展示ではないですけども、何か見てもらえるような形にしていけば、やっぱり、つくったものを自分の家に持ち帰って誰にも見られないままよりかは、どこかに飾っている人に見てもらって褒めてもらったり、この作品はすばらしいよねと言ってもらったほうが、やっぱり物をつくるときの活力が生まれてくると思うのですよね。そういったことを考えていったときに、僕個人として思ったのは、共同利用館に和人の方を入れないというか、利用をさせないみたいなことではなくて、やっぱりアイヌ文化のすばらしさをこれから和人の方にも理解してもらわないといけないとすごい思うので、施設を利用できるかできないかは微妙として、せめて展示が見られるようにするとか、そういったような形で、ちょっと言葉がまだまだまとまっていないのですけれども、これからアイヌと和人が共生していくような社会のために、共同利用館を、アイヌのものだけというよりかは、文化交流ではないですけども、そういった場にしていくほうがいいのではないかなと聞いていて思いました。

例えば、儀式だったり作業場とかは、アイヌの方々しか入れないようにするとか、そういったような形で、自分たち、ウタリの場所を守るということもできると思うので、誰かを退けるのではなくて、どうにか工夫して一緒に頑張っていけるような形にできたらいいのではないかなと思いました。

ちょっと急だったので、全然言葉がまとまっていないのですけれども、こんな感じでした。お願いします。

○本田部会長 ほかにないですか。

川上さん、お願いします。

○川上さん 生活館の継続についてのお話なんですけども、私は、この生活館、今の共同利用館ができてから教育文化部長を16年間やらせていただいて、本当にとっても役に立ったんです、共同利用館はね。アイヌの子弟の子どもたちに、毎週土曜日、土曜学習会と言って、勉強、そしてボランティアで来てもらっている先生方で組んで、16年間やってきたんです。なので、札幌市のほうでも、冬休みと夏休みの1週間、集中学習会ということで、毎日、朝9時半から12時半まで、その中で、この16年の間に、私ながら、12時になると30分間だけアイヌ文化について私がお話をしているんです。ウパシクマとか、アイヌ語のワンポイントだとかということで、ちょっと私も勉強しながら、子どもたちにもそういう勉強を一言ずつ教えていきたい、自分も楽しかったっていうか、だからもっともっと生活館を利用させてもらって、もっとたくさん子どもたちが来て、いろんなアイヌの子どもたちがもっともっと、高校、大学と行って、もっと世界中を走り回ってほしい、もっともっと勉強してほしい、そのためにも生活館はとっても必要なものなんです。ご無理を言いますけども、お世話になりますけども、やっぱり札幌市の人をお願いする以外に私たちはないです。ですから、これもまた検討していただけたらなと思いますので、よろしく願いいたします。

○本田部会長 ありがとうございます。

北原さん、お願いします。

○北原さん 伊藤さんがさっきご発言されたことで、伊藤さんは委員として参加してらっしゃるんで、ちょっと私からも少し情報提供というか、こんなことがありますよっていうお話をしたいんですけど、やっぱり、図書コーナーとか、展示コーナーとかをつかって、それを一般に誰でも利用できる形で公開するっていうのはありだなというふうには思うんです。

ただ、やっぱり、伊藤さん自身がおっしゃっていたように、ゾーニングをしっかりと、ここからここまでねっていうのをやっておかないと、例えば、東京のアイヌ文化交流センターとか、ああいうところって、説教する人とか、教えたがりの人とか、何時間も居座って職員の仕事を妨害するとかっていうのがあるので、それから、卒論学生とか、アイヌの方にインタビューしたい研究者とか、メディアの人とか、いろんな人がここに入出入りしている人間を紹介しろと来たときに、どうやってそれを断るかっていうことも考えておかないといけないので、ここからは絶対に入らないでねって言って、柵をつかって電気を流しておくとかということぐらいしないと本当に大変だと思います。

以上です。

○本田部会長 ありがとうございます。

すいません。私の意見ばかりで申し訳ないのですけれども、私は、入り口を分けたらいいだろうとずっと思っていたのです。やっぱり生徒さん方がお見えになるときに、その和

人の生徒さんたちにだって、打ち解けられない、むしろちょっと下がってしまうという方々がたくさんいらっしゃると思うので、そういう利用をされる方と本当にアイヌの方々が心から楽しめる場所をそもそも、表、裏ではないですよ。右、左でもいいので、そういう形で、先ほどおっしゃったゾーニングというのをしっかりして、ここはもう絶対に立ち入れないという空間をしっかりと確保すべきなのかなど。そうしておく、和人の生徒さんが見えても大丈夫なのかもしれないとか、そういうふうに思ったりはしておりました。

すいません。私ばかり口を挟んでおります。そうすると、もう時間が結構来てしまいましたので、立地のほうに移っていきたいのですけれども、よろしいでしょうか。どこにつくるかというかなり大きな問題になりますけれども、現地での建て替え、あるいは、中心部がいいという様々なご意見があります。複合施設ではなくて、単独の施設でとか、今までの議論にも関わるようなことですが、また、公園がいいのではないかと、いろいろなご意見が既にありますので、ぜひここでご意見を挙げていただければと思います。

田澤さん、お願いします。

○田澤さん 私の考えでは、まちの中と違って、そういう考えはなくて、まず、交通の便がいいところ、病院があるところ、それから、もちろん緑が多いところ、それから、自分たちが、札幌市のアイヌで自然活動できれば、そういうところ、今、車もそうですし、やっぱり、地下鉄に乗ったり、電車に乗ったりするんですけど、みんな中央区、中央区って行くんですけど、私は、車だったら中央区が一番不便です。お金もいっぱいかかります。今日ここに来て、1,000円以上かかるんですね、2時間いたら。そういう場所がいいのか、きちっと、アイヌが集う場所ってというのは、そういう負担を少なくすること、病院は不可欠です。何があるか分かりません。

○本田部会長 いかがでしょうか。皆さん、いろいろな考えをお持ちだと思うので、本当にそれぞれ意見を出し合っていただければと思います。

藤岡さん、お願いいたします。

○藤岡さん 今、中央区役所がちょうど建て替えをやっているわけなのね。そうすると、地下鉄からも近い、緑はちょっと遠いけども、もう一つ、私の考えていることがあるんだけど、緑があって、本当に病院も隣にあってっていう、そういう場所も一つあるんですよ。ここは元道営住宅が建っていた場所で、かなりの広さがあるんだけど、ここもいいなってずっと、私は何年前に言ったことがあるんだけど、どうですかという話をしたことがある。今、みんなが集まりやすいついたら、中央区役所、今やっているんだから、そこへ要望してもらおうとか、そういうふうにしてくれたらいいなと思っています。

○本田部会長 いかがでしょうか。

早坂さん、お願いします。

○早坂さん ここにも書かれているんですが、第1回的时候に本田先生が言っていたように、大きな公園内とかにあるといいよねって、確かに本当にそうだなっていうのをちょっと思いながら読ませてもらいました、議事録。

ここにもちょっと、私の意見がちょうどたまたまここにあるので、やはりどうしても、土地がどうしようもならなかったら、やっぱり今の場所しかないのかなとは確かに思うんですが、そうしたときに、1階は駐車場で、2階以上から事務室とかになったらいいだろうとか、そういうこともいろいろやっぱり思うんですが、今、田澤さんがおっしゃったように、車で来たらもちろん、私も車で来れば、こっちで交通費っていうか、駐車場代がかかるっていうのはもちろん、それはそうなんです。でも、それは車を持って動いているからだけであって、じゃ、地下鉄だとか、車がなくて、そういう人たちはどうするのかって、そういう人たちのほうがやはり多いっていう部分を考えていくと、やはり公共で動いて少しでも歩く距離が減るぐらいの場所のほうが、やはり私は立地的にはいいのかなって考えています。

以上です。

○本田部会長 ほかにいかがでしょうか。

長縄さん、お願いします。

○長縄さん 私も、そういう地下鉄とか、バスとか、そういう駅が近いところが一番いいとは思いますが、私は、実際、手ぶらで行くっていうことがないんですね。仕事絡みなものですから、必ず大荷物っていう感じだから、そういう地下鉄に乗ったり、バスに乗ったりっていうのは、ちょっと不可能なんですね。だから、やっぱり車で利用もできる、駐車場もちゃんとしていて、なおかつ公共の乗り物から近いっていうところがやっぱり理想なんじゃないのかなと思います。中央区じゃなくても、どこの区でも、そういうところがいいんじゃないかなっていう感じがします。

○本田部会長 ほかにいかがですか。

では、後藤さん、どうでしょう。

○後藤委員 今まですごくいろいろ伺ってきて、公共交通機関の利便性を優先するのか、安心して集うために、ほかの人の出入りを気にかけないでいいところを優先するのかというところでも変わるのかなと思って聞いていたのですけれども、皆さんがおっしゃるように、まちの中心部にあったらきっと行きやすいのだろうなと思うのですけれども、その分、きっと土地の確保も難しくなると思うので、地下鉄とかの路線には近いけれども、ちょっと離れた辺りだと、まだ確保はしやすいのかなと、全然知らないのですけれども、思いました。

以上です。

○本田部会長 ほかにいかがでしょうか。ここで結構議論が盛り上がるのかと私は思っていたのですけれども……。

○早坂さん しゃべってばかりいていいのかなと思って、手を挙げるのをやめていました。

○本田部会長 どうぞどうぞ。沈黙よりは。どうぞお願いします。

○早坂さん 先ほど藤岡さんが言っていたように、中央区役所なんて、今、建て替えてい

るので、そういうところに入れるのもいいのかなって私は思ったりもしたんですけど、区民センターとか、そういうところの近くの場所であれば、駐車場もすぐ近くにあったりするので、いいのかなと。

私も、仕事柄、大きな荷物がたくさんあるときもあります。そのときは、でっかいキャリアバックに一生懸命突っ込んで、地下鉄に乗っていくときもあります。でも、それは、まちなかだからしょうがないから、車で行けないからっていう。誰か送ってくれる人がいればいいけど、そうじゃなかったら自分で行くしかないのも、もちろん車で動く人たちのことも考える必要はあると思うのですが、でも、高齢でもう車を運転しなくなった方たちとか、そういう方も、この間、ピリカコタンで撮影するってなったとき、高齢になった方が朝の8時半にピリカコタンまで行かなきゃならないっていう状況が起きたときに、やっぱり大変。そういう話とかも聞いていると、高齢で車も運転できなくなったからなかなか行けないよっていうような方たちが集えるような場所が一番いいなと思うので、やはり私は中心部のほうが集いやすい場所になるのかなっていうふうに思っています。

以上です。

○本田部会長 田澤さん、お願いします。

○田澤さん 一つ疑問があります。札幌市が持っている土地が市内のどこにどれだけあるのかっていう情報が一切ない中で議論しているんですよね。例えば、大学の構内とか、広い敷地がありますよね。そういうところも候補としてはありますよね。北海道大学だってあるじゃないですか。札幌大学だってあるじゃないですか。アイヌのことをやっている大学がそこに協力しない手はないじゃないですか。まして、北海道大学は、いっぱいアイヌと関わりのある大学が、緑もあるし、大きなビルが建っていないじゃないですか。アイヌ・先住民研究センターもあるじゃないですか、あの中に。そこに行ったら資料がいっぱいあるよって。近くに一带でできるじゃないですか。そういうこともありかなと。あそこだと私は賛成ですね。植物園でもいいですよ。アイヌが自然体験できる場がその中にあるっていうことが、そのビルの中にそんなないじゃないですか。無理して、こういう映像だけじゃなくて、実際にその中を体験するっていうこともありだと思っているので、そういうことも市が本気で取り組んでくれるか、私たちが市の問題を買う必要はないですよ。要望するんですから。土地がないとか、お金がないっていうのは、市がそういう計画を立てていないだけで、市の問題を私たちが今買って議論をしているんですよ。市の問題は市がきちっと解決する、アイヌの要望を聞くっていうことはこういうことなんですよ。それを聞いて初めて予算化するっていうのが筋じゃないですか。

○本田部会長 いかがでしょうか。市のほうでも、今使えるような市の市有地ですか、そういうところは結構調べてくださっていると私は個人的には聞きました。それがなかなか大変で、例えば、保育園が近々なくなるかもしれないとか、何かそういう情報もいろいろ入手して下さってはいるようです。でも、多分、まだあまり表に出せないのですよね、きつとね。だから、努力はしてくださっているかなくらいには思っているのですが、いい

かがでしょうか。

○事務局（松下企画係長） 第1回の部会の中でも一部話題がございましたが、施設を廃止したときには、その後利用を考えて、後利用する方法がなければ売却するという形で、比較的、市有地については、用途がないまま放置されるというケースが少なく、共同利用館の後継施設を建てるための適地として、すぐにここだということで候補を挙げられるという状況ではない中で、今、情報収集させていただいているところでございます。今すぐにこういう場所があるということをお示しできないのは大変心苦しいところではあるのですが、皆様からのご意見を踏まえて、適地、意見に沿うような場所を探していきたいと考えてございます。

○田澤さん 借地でもいいんですね。だから、北海道大学から借地……

○早坂さん どうしても北大に行きたいみたい……。

○田澤さん 土地を借りて建物を建てる、そこを自由に使えるっていうことも可能じゃないですか。

○本田部会長 ただ、ごめんなさい。個人的な考えですけれども、すごく時間がかかるように思います。そうすると、今、この老朽化したところに残って、北大にこれからずっとしぶとく、要するに、国に対してということになるので、それはなかなか時間がかかるかもしれないというのが個人的な意見です。

あと、札大にというご意見もありましたけれども、札大は、大変、アイヌ文化を最近売りにはしておりますが、大学全体の合意が取れているわけではないです。ウレシクラブを立ち上げたときに、私は、物すごいバッシングを受けました。じゃ、それが10年ちょっとたって変わったかという、まだまだそうでもなくて、応援してくれる人は増えてはきましたけれども、結構、よろいを身にまとって頑張っているようなことなので、うちの大学の中にそういう施設をとると、また物すごい時間がかかってしまうかなというのが正直なところではあります。すみません。

○田澤さん 最後に提案です。札幌市のどこにどういう土地があって、そこは候補だよっていうことを提示してもらわないと、希望に沿ったものはできないと思うんで、時間稼ぎをしているのは市だと思っているんで、そっちじゃなくて、ちゃんと要求をしてください。いつまでに、どういう土地があって、この候補の中で。百歩譲ります。

○本田部会長 譲ってくださったそうですので。

藤岡さん、お願いします。

○藤岡さん 札幌市さんにちょっと聞いてほしいんですけど、私は、もう何年も前から、札幌は北海道のアイヌの見本なんだ、何回もそうやって私は言われてきました。ところが、見本なんだって言いながら、田舎のほうは立派な生活館がどんどん出来上がって、そのたった一つの今の44年もたつ生活館、もうちょっと早めに札幌市は動いてほしいと思います。

○本田部会長 札幌市への要望がたくさんございますので、ぜひ頑張ってください。

思います。

早坂さん、お願いします。

○早坂さん これってもう、今回のこの意見交換会っていうのは、今回の一回で終わりなんでしょうかね。

○事務局（松下企画係長） 現時点で具体的に想定している意見交換会としては、今回のみです。

○早坂さん もし次があるんだとしたら、今の場所になったとしたときのメリットとデメリット、候補の場所が、札幌市の土地があったとして、そこになった場合だったらメリットとデメリットがあるっていうのを何か表にしてもらって、見せてもらって意見交換会ができればいいなってちょっと思ったので、それだけです。

以上です。

○本田部会長 それでは、そろそろよろしいでしょうか。時間が来てしまいました。まだまだ多分思っただらっしゃることがいっぱいあると思うのですがけれども、取りあえず、8時半くらいに片づけ始めないと駄目だということですので、今日はこれくらいにさせていただきますと思います。

それで、ご意見は本当に大事な重要なことばかりだったと思います。しっかりと受け止めて、これから部会として真摯に検討するというをお約束申し上げたいと思います。

後継施設の整備に向けて、部会において改めてまた議論し、アイヌ施策推進委員会に報告するというのを予定しております。

それでは、事務局にもう一度お戻しします。

#### 4. その他

○事務局（松下企画係長） 本日は、様々なご意見をありがとうございました。

ただいま部会長からもございましたが、これから部会として中間的な報告をまとめて、アイヌ施策推進委員会のほうに報告するという流れを想定してございます。

委員の皆様におかれましては、年明けの1月頃にまた会議を開催する予定でございまして、後日、日程調整をさせていただきたいと思っております。

本日の内容につきましては、後日、議事録の形で札幌市のホームページにおいて公開いたしますので、あらかじめご承知おきください。

事務局からは以上でございます。

#### 5. 閉 会

○本田部会長 ありがとうございました。

それでは、本日の意見交換会を終了したいと思います。

遅くまで本当にありがとうございました。

以 上